

2018年(平成30年)1月10日 水曜日

報 日 幸 民

来年度からの下水道計画区域

703ヶ所に大幅縮小

黒石市

黒石市は来年度から8カ年の公共下水道事業計画について、計画区域面積をこれまでの876ヶ所から703ヶ所に縮小する計画案をまとめ、9日から住民説明会を開始した。国が示した計画策定のマニュアルに従い10年程度で実施可能な計画に改めたところ、財政状況が厳しいことから大幅な縮小となった。

見直し対象となるのは同市浅瀬石、六郷、北地区などの一部。計画案は2月上旬に予定している市の都市計画審議会に諮り、2月中旬に正式決定する見通し。縮小対象となる世帯数について、市上下水道課の須藤勝美課長は「把握していない」と説明している。

同課によると、2016年3月末現在、市内で下水道整備済みの区域は約593ヶ所。16年度、新たな下水道の敷設に使った工事費は約2400万円で、年間約

1ヶ所の整備にとまっけてい

同市の下水道事業会計は過去の過大な建設投資などから長年赤字が続ぎ、16年度末で企業債の未償還残高が約70億7千万円と厳しい状況が続いている。償還が終わるのは2047年。

須藤課長は取材に「今回計画区域から漏れた地区についても8年後、新たな計画を作る際に財政状況などを見ながら再度検討していく。その地区は金輪際、下水道を整備しないというつもりではない」と話した。

9日の浅瀬石地区の説明会にただ一人参加した同市

の工藤邦雄さん(77)は「市の計画見直しは財政が理由であれば仕方がないと思う」と語った。

市は16日午後6時半から、市内全域の住民を対象とした説明会をスポカルイン黒石で開く。

(山口拓郎)